



日本に長期低迷から脱却の兆し

2023年の世界は地政学リスクが近年になく高まるなど混乱が膨らんだ割には、経済は当初の予想以上に安定的に推移した。その要因と持続性を読み解いた上で、2024年の世界経済の行方を考える。

丸紅株式会社 執行役員

丸紅経済研究所長 **今村 卓**

グローバリゼーションの変容

2023年の世界経済は堅調に推移した。同年の世界 GDP は前年比3%弱に収まった見込みであり、2%台半ばと予測した1年前の筆者の見方も市場のコンセンサスも悲観的過ぎた。中でも大きく読み違えたのは米国経済だ。筆者も市場も23年後半には景気が後退寸前まで停滞するとみていたが、実際には7~9月期の実質 GDP は前期比年率5.2%増へと急加速した。日本経済も23年上半期に同4%近い高成長を記録、下半期は調整気味になったが、2023年の成長率は1%台後半と潜在成長率も当初予想も上回った。新興国も中国とインドを中心に予想を上回った。

この間、世界経済を取り巻く環境は筆者の想定よりも相当悪化した。ロシアのウクライナ侵攻の長期化に加え、10月にイスラム組織ハマスがイスラエルを奇襲して始まった大規模衝突は、パレスチナ自治区ガザで今も続いている。米中対立も深化が止まらない。11月にはサンフランシスコで1年ぶりに米中首脳会談が行われたが、実のある合意は衝突回避への軍事対話の再開にとどまり、経済面での歩み寄りも乏しかった。米国と対立する中国、ウクライナに侵攻したロシアを主な対象とする貿易投資の制限、経済制裁も着実に増え、30年余り続いたグローバリゼーションも明らかに変容している。

それでも、これだけ世界の地政学リスクや貿易投資制限が増大しているのに世界経済は安定を保っている。ロシアから安価な天然ガスを輸入できなくなりエネルギーコストが増大したドイツの景気後退など、地政学リスクからの悪影響が生じている国はある。だが全体で見れば限定的である。その一方で、米国や日本においてコロナ禍の収束する局面で生じている復元力が景気を強く押し上げている。それが地政学リスクなどの悪影響を上回っているのだろう。

世界で新たに課された貿易・投資規制の数



(出所) Global Trade Alert.

コロナ禍からの復元力に差

米国の復元力の強さは、突如として5%成長が実現した23年7~9月期の米国経済の状態によく表れた。FRBが推定する米国の長期的な潜在成長率は1.8%。それに対する実際の成長率が5%台なのだから、需給は引き締まりインフレ圧力が生じ失業率は低下、FRBは利上げを求められると考えたくなる。しかし現実には、この時期のインフレ率は低下し失業率は上